

令和元年 6 月 13 日
宮城県原子力安全対策課

再建中の女川オフサイトセンターについて

1 オフサイトセンターの概要

鉄筋コンクリート造 地下 1 階地上 3 階建て 延べ面積 3,794 m²

○建物の主な特徴

- ・地震の被害を低減するための免震構造
- ・建物外からの放射線量を低減するためのコンクリート厚壁構造
- ・放射性物質の侵入を防ぐための空気浄化フィルターを搭載した換気、陽圧化設備

○各階の概要

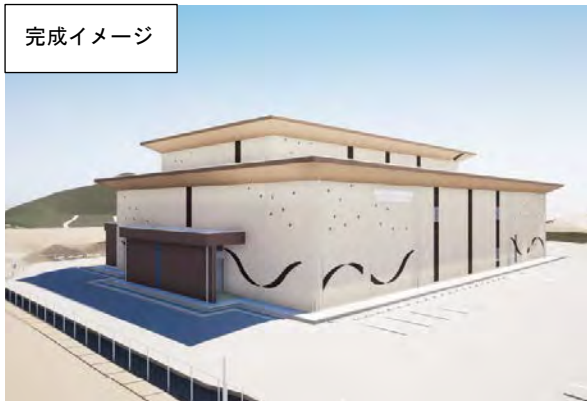
地階：免震関係設備

1 階：原子力規制庁女川原子力規制事務所、除染室、倉庫、プレスルーム など

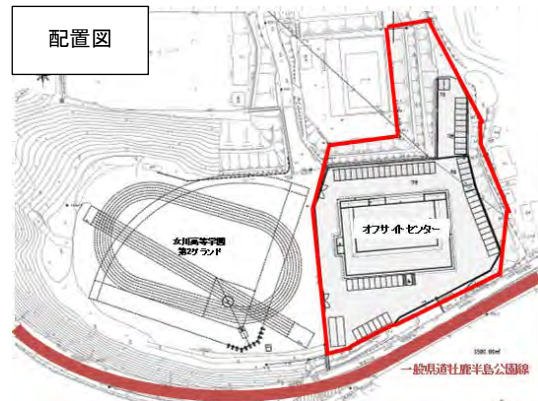
2 階：原子力災害合同対策協議会及び県現地災害対策本部室、会議室 など

3 階：仮眠室、休憩室、倉庫 など

完成イメージ



配置図



2 スケジュール

○契約工期 令和元年 11 月 15 日まで

○令和元年 5 月末現在の建築工事進捗率 62%（予定通り）

県の建築工事完了後、国の通信機器等の設置工事や暫定オフサイトセンターからの引越作業等及び国の指定を経た後に供用開始される。

令和元年6月13日
宮城県原子力安全対策課

大気モニタ及びオートサンプルチェンジャー付きヨウ素サンプラの設置について

1 概要

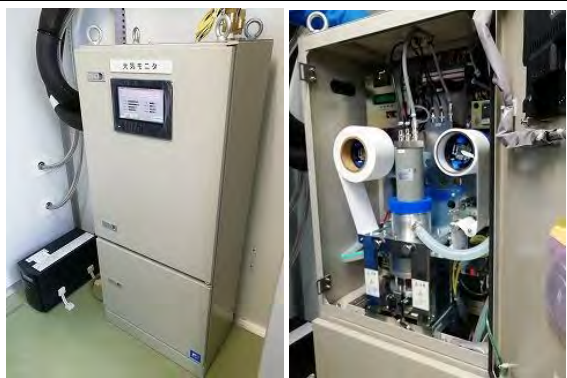

平成30年度に大気モニタ（19箇所）及びヨウ素サンプラ（5箇所）を設置したもの。同機器は、大気中の放射性物質の濃度測定のために緊急時モニタリングに使用される。

〔大気モニタ〕

大気中の浮遊粒子に付着した β 線放出核種の放射性物質濃度をリアルタイムで連続的に測定する機器。設置箇所周辺の空気を吸引し、長尺ろ紙に通すことで、大気中の当該核種が付着した粒子を集塵する。放射性プルームの状況把握に用いられる。放射性物質の吸入は内部被ばくの原因となるため、プルームの影響が少ない時点で避難が実施できるよう、避難の判断等に使用される。

〔オートサンプルチェンジャー付きヨウ素サンプラ〕

大気中に存在するガス状及び粒子状の放射性物質（放射性ヨウ素）の濃度を測定する機器。設置箇所周辺の空気を吸引し、活性炭ろ紙及び活性炭カードリッジを通すことで、大気中の放射性ヨウ素を捕捉する。活性炭ろ紙及び活性炭カードリッジは後日回収し、分析を行う。大気モニタで測定できないガス状の放射性ヨウ素も測定できるため、原子力災害時の内部被ばく評価に用いられる。

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| 大気モニタ | オートサンプルチェンジャー付きヨウ素サンプラ |
| (左) 外観 (右) 内部（長尺ろ紙部分） | (左) 外観 (右) 内部（捕集材：ろ紙、活性炭ろ紙 活性炭カードリッジの3層） |


令和元年 6 月 13 日
宮城県原子力安全対策課

簡易型電子線量計の通信二重化について

1 概要

平成 29 年 4 月 25 日付け原子力規制庁事務連絡にてモニタリングポストの電源及び通信の多重化に係る依頼が発出されていたが、多重化未実施の地域もあり、平成 30 年 9 月に発生した北海道胆振東部地震では、複数のモニタリングポストにて欠測する事態となった。これを受け、簡易型電子線量計の多重化事業を推進するため、平成 31 年 3 月 19 日付けで平成 30 年度第 2 次補正予算（原子力災害対策事業費補助金）の交付決定がされた。

宮城県内 49 箇所に設置している簡易型電子線量計について、現在衛星回線のみであるため、本補正予算にて通信二重化するため工事を行うもの。

| 【現状】 | 【通信二重化のメリット】 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>原子力災害発生時に空間放射線量の測定を開始し、測定結果が衛星回線を通して環境放射線監視センター内サーバーに記録される。</p>  <p>問題点：通信手段が 1 つ（衛星回線）であるため、通信障害時に空間放射線量の記録が不可能。</p> | <p>通信二重化をすることで、一方のシステムに障害が生じた場合であっても、空間放射線量を記録することが可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常用回線（<u>地上系無線通信（LTE）</u>） ・ バックアップ回線（衛星回線） |

2 今回の工事内容

- ・ LTE 回線導入に伴う LTE 通信機器の整備及びバックアップ電源の更新
- ・ 簡易型電子線量計ソフトウェアおよびデータ収集装置の機能改造，等